

8/6  
五

# 「戦争法案阻止へなんでも」

## 各地で宣伝・署名・集会

長野 松本

「日本の未来を決めるとき」

長野県松本市で、5の両日、新日本婦人の会がレッドアクションキャラバンに取り組みました。2日間で6カ所宣伝しました。5人が乗った宣伝力

1は移動中も宣伝。4日、市内3カ所のスーパー前をまわりました。各宣伝場所には、近所から赤い靴やエプロンを身につけて駆けつけ、17人が参加。スタンディングアピールとリレートークを行いました。

由紀子さん(46)は「今こそ行動を起こさなければなりません。私たちは今、日本の未来、世界の未来を決める時です」と自分で用意してきた原稿で訴えます。「何でも多数で通せばいいと思っているところが頭にくる」。安倍さんのダメなところを原発・辺野古って書き出したら、20もあった。本当に許せない。2人

の参加者は怒りを口々に語ります。2カ所目では地元の新婦人班会員の半数が参加。「みんなに電話して誘ったのよ」と言います。80歳の女性は「年寄りが騒いでも」と思うが、自分の孫が戦争にとられるかと思っただけで、じっとしていられない」と語りました。近くなら参加できると宣伝行動に初

参加の人もいました。ドアクションに取り組む人もいます。今後も工夫してレツ



レッドアクションキャラバンでスーパー前でスタンディングアピールとリレートーク=4日、長野県松本市

福井 坂井

「父が戦死」戦争はだめ

福井県坂井市の坂井町9条の会は1日、戦争法案の廃案を求めて坂井町内で宣伝署名に取り組みました。清水喜一郎事務局長ら5人が「戦争法案に反対しよう」と訴え、国会請願署名への協力を呼びかけました。

3人の子を連れた女性(35)は「子どもを」戦場に行かせるわけに「いけない」と署名に応じました。

50代の女性は「父の兄が戦死した話を父から聞いている。戦争だけはだめ」、82歳の男性は「父は2回兵隊に行き、2回目で戦死した。戦争だけはだめだ。安倍さんは何を考えているのか。国が壊れてしまう」と話しました。

敦賀市でも

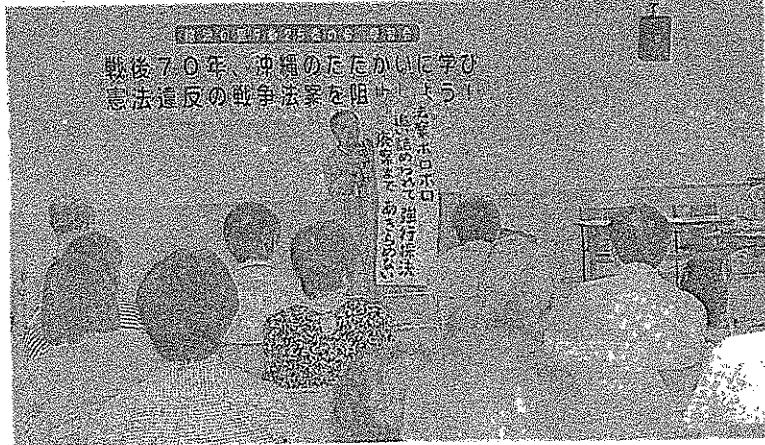
宣伝行動は敦賀市でも取り生まれ、「九条の会・敦賀」など5団体と個人でつくる「戦争法案」反対共同行動

実行委員会が実施。木寄(きさき)精二事務局長らの訴えに、家から出てきて「頑張つて」と声をかける男性などがいました。

新潟市西区

危険性知って  
行動起こして

新潟市西区の特養ホ  
ーム「穂波の里」9条  
・25条の会は2日、施  
設内で戦争法案に反対  
する学習集会を開き、  
職員や住民など50人が  
参加しました。



字幕を掲げ、朝宣伝していることを紹  
介する金子弁護士=2日、新潟市西区

会の細貝昌明さんは  
「安保法制の本質は戦  
争の2文字に尽きる。  
安倍内閣に未来を託す  
わけにはいかない。集  
会を反対運動の力にし  
てほしい」とあいさつ  
しました。

講演した沖縄県人会  
の上地源光前会長は、  
琉球時代から貿易や平  
和的交流を大事にして  
きた歴史と、戦争中、姉  
たちが逃避行中に洞窟  
で餓死し、戦後住民が  
米軍に土地を奪われた  
苦難の歴史とたたかい

を語りました。本土と  
沖縄と基地問題での意  
識の乖離(かいり)を指  
摘し、戦争法案を廃案  
にするためにも、沖縄  
県民の心に寄り添って  
ほしいと訴えました。

同じく県憲法会議副  
議長の金子修弁護士  
は、戦争法案は集団的  
自衛権行使の判断がと  
きの政府にまかされ、  
戦闘現場以外での後方  
支援のための自衛隊の  
海外活動や、武器使用  
を認めることは、交戦  
権を認めない憲法9条  
に明確に違反すると指

摘。戦争法案を許せば  
日本に民主主義がなく  
なり、アメリカの属国  
になってしまうと述  
べ、「危険性を知った  
からには、行動を起し  
てほしい」と訴えま  
した。

参加者から「戦争法  
案廃案で思いつくこと  
は何でもしよう」と、シ  
ールを普及し、携帯電  
話などに張り出す活動  
を進めたい」「大学教  
授などが呼びかけた8  
日の西区パレードを大  
成功させたい」などの  
発言が続きました。